

令和5年度 学校評価

1 自己評価結果等

重点目標	<p>「自立や社会参加に向け必要な力を身に付け伸ばす」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新学習指導要領の改訂の趣旨に応じた各授業・自立活動の改善 2 ICT機器の効果的な活用と教職員の指導力向上 3 安全で安心な学校づくりと健康の保持・増進 4 地域及び関係諸機関との連携及び社会に開かれた教育課程の推進 5 知肢併設に向けた年間行事や教育課程等、教育環境の整備 		
担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
小学部	<p>主体的・対話的・体験的な授業を通して社会性を伸ばす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画を基に実態を把握して3観点を意識した指導計画を策定し、関連する教科を意識しつつ、児童が主体的に活動できる授業を展開する。 ・地域環境や資源を活用した体験的な学習、ICT機器を有効活用した学習などから社会性の拡大を図る。 ・新しい生活様式に対応した環境を整備し、将来の社会生活を見据えた指導を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3観点を考慮した指導計画のもとで授業を行った。発達段階や実態に応じて支援機器を工夫して活用することで、児童が自ら操作・活動しながら学習の定着を図ることができた。 ・ICT機器の活用で意思の表出拡大が図れ、疑似体験学習などで気持ちの表現力が高まったことで、交流や買い物などの実体験学習で人との触れ合いに生かすことができるようになってきた。 ・健康面での配慮をしながら集団での活動を行っていくことで、健康管理や人への配慮など社会生活への対応力が高まった。
中学部	<p>表出力・表現力の向上を目指した授業を実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のつながりや学習のつながり、人とのつながりを考えた学習活動を設定する。 ・各学年のテーマを踏まえ、系統的かつ体験的な活動を展開する。 ・生徒や保護者の思いに寄り添い、安心して学習できる環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ABスタディでは、調べ学習や資料の共有、生徒間での意見交換などを、タブレット端末を利用して行った。Aスタディの生徒については、生徒自身が見通しをもち、学校だけでなく自宅での学習も進めることができた。Cスタディでは、実態に応じてタブレットで個別課題を作成し、活用した。繰り返し取り組む時間を設定することで、手元を見ながら集中して活動できるようになった。今後も、個々の目標を明確にした上で、ICT機器の使用の有無や、使用ソフトの選択を行い、有効活用できるとよい。 ・学年やスタディにおいて、テーマや行事を考慮し、学習のつながりを意識した校外学習を実施した。近隣の地域資源を利用することで、実際の場面での具体的な活動を通して、学習を深めることができた。 ・特に行事前に、学年での学習を計画的に実施した。事前学習や発表に向けての練習において、同じ学年の友達と活動することで、互いのよさに気付いたり、協働したりすることができた。行事当日は、友達と一緒に楽しんだり、達成感を味わったりする姿が多く見られた。 ・日頃から、生徒や保護者の言葉に寄り添い、丁寧な対応を心掛けている。また、必要に応じて外部関係機関と連携し、支援会議を実施した。情報共有をすることで、学校生活における配慮事項を確認したり、生徒の指導、支援に役立てたりすることができた。
高等部	<p>卒業後の自立や社会参加を見据え、これからの社会で必要となる資質や能力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルとアナログを効果的に組み合わせ、学びの質の向上を目指す。 ・学校生活や他校との交流において、互いを尊重し協働する姿勢を育む。 ・外部機関と連携協働しながら、教育目標を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や生活場面において、障害の実態、認知特性、習熟度に応じたICT機器、アプリケーション、手作り教材等を積極的に活用した。生徒がより主体的に学習に取り組むことができるようになり、理解促進、学習意欲の向上、感情の表出につなげることができた。 ・授業や行事、訪問教育の生徒とのリモート交流等を通じて、自分の意見を自分の言葉で分かりやすく表現する力、他人の意見や思いに耳を傾け尊重する力、協力してものごとを遂行する力などを育成できる機会を設定し、実践した。少しずつ力の育成ができつつあるが、今後も継続して取り組んでいく。 ・登校支援などの課題ごとにチームを組み、解決に向けて取り組んだ。学校では解決が難しいときは、チームにスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、地域の福祉課、社会福祉協議会、相談支援員等に入ってもらい、積極的に連携協働した。
訪問教育	<p>人との関わりを大切に授業を実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問教育の活動を通して、児童生徒同士や取り巻く人と関わる機会をもつ。 ・授業の中で意思や感情の表出を促すような内容を展開する。 	<p>今年度は運動会、母学級交流、訪問交流会において、双方向通信を使った活動を取り入れた。日々の授業では双方向通信を利用した「訪問グループトーク」を計画的に活用し、多くの交流の機会を設けることができた。「訪問教育交流会」では、保護者の協力のもと交流の機会を広げることができた。双方向通信を使った活動は、児童生徒にとつ</p>

			て友達との関わりをもつ機会として定着しており、交流を図る中で、明るい表情や積極的な表現、表出が見られた。
総務	「新しい生活様式」を踏まえた儀式的行事について改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて儀式的行事を立案し、改善をしながら実施する。 ・現在の在り方から課題を見つけ、知肢併設時を見据えた検討につなげる。 ・児童生徒、教員がつながりを感じられるようにICT機器を効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の儀式的行事は本校の感染症対策の現状と国として感染症対策が緩和された状況、知肢併設に向けた工事による影響を考慮した案で実施した。本校の状況と儀式的行事を実施する目的・目標を確認しながら検討を進めることができた。 ・令和8年度以降の儀式的行事の在り方や実施方法等の具体的な立案や決定は管理職、他分掌との調整不足もあり、進めることができなかった。学校要覧作成については検討した。本校としての儀式的行事の目的や目標を見直した上で、他と連携・調整しながら、具体的な案を立案していきたい。 ・始業式、終業式、卒業証書授与式におけるオンライン配信の活用を実施、検討した。配信手順は、参考資料を作り、分掌職員間で周知した。卒業証書授与式については、合理的配慮の面と今後の儀式的行事の実施方法の面で選択肢として増やせるようにオンライン配信を継続した。
教務	学習指導要領の三観点を踏まえた学習目標の設定、授業実践、評価の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の三観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を踏まえた目標・評価について、年間指導計画の記入や現職研修等の機会を利用して、全職員の理解の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員向けの学校評価アンケートの結果は、2項目共に良好な評価であった。 ・「年間指導計画」において3観点を意識しながら授業の目標・内容を設定し、それらの観点到った評価を、「学習の記録」において表記することが定着してきた。 ・授業における「育成したい資質・能力」を教科の視点で明確に捉え、目標・内容を設定することが課題である。 ・単元や内容のまとまりごとに、「育成したい資質・能力」を評価し、それらを授業の改善や児童生徒の学習の振り返りにつなげるようにしたい。
研修	「学習者主体」の研究と研修の充実及び情報共有を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のニーズに応じた主体的研究や研修を実施することにより、「授業づくり」や「授業改善」に対する教師間の対話を促進し、教員の力量向上を図る。 ・研修の目的や内容に応じて、集合や分散、対面、オンラインなどを柔軟に組み合わせ実施できる体制を整えながら、情報共有に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県から研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励の働きかけがあったことで、eラーニングを含めて自主的に研修に参加する教員が増えた。引き続き各研修会の情報を職員と共有していきながら、令和6年度に向けて研修履歴ポートフォリオへのデータ化を校内で進めていきたい。 ・グループウェアを有効的に活用しながら、情報発信が積極的にできた。今後も研修の目的や内容に応じて実施方法をその都度検討していきながら、学習者主体の研究や研修を考えていきたい。
図書	児童生徒が本を身近に感じられる図書室環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の行事や啓蒙活動を通し、図書室や読書への興味・関心を広げる。 ・配架の仕方を工夫し、読書意欲を高められる環境づくりに努める。 ・児童生徒の興味・関心、実態に合わせた図書の選定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内読書週間を実施した。読み聞かせのボランティアには昨年度までよりも多くの応募があり、教員のみならず保護者や高等部生徒による読み聞かせ活動を実施でき、読む側も読んでもらう側も楽しんで参加する雰囲気を感じられた。また、図書室内や廊下に参加型の展示を行い、多くの児童生徒が参加することができた。 ・アンケートを参考に、絵本を中心に図書を選定して新規購入をし、掲示板やグループウェアを通して児童生徒や教職員に周知したうえで目立つ場所に配架した。多数の問い合わせや貸し出しがあり、よく活用されていた。 ・古い図書の修繕をするとともに、季節や行事に関する本や図書部職員推薦の本の表紙を見せるように展示して、本を手に取りたくなる書棚作りに取り組んだ。
教育情報	ICT機器の整備と効果的な活用を進めるために必要な準備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や校務によるICT機器の活用のために必要な機器の情報の提供や提案を行う。 ・教育情報部主任、ネットワーク担当者を中心に組織的に業務を行えるように進める。 ・職員の情報モラル向上のために情報資産の管理について徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器については、一覧を作成できたためそれについて情報発信や授業の様子から提案できる機器を伝えることができた。 ・業務の精選については、学習用タブレットに関することをまとめることができた。今後、知肢併設に伴う検討と同時に他の内容についても継続して今後も実施する必要がある。 ・情報資産については、年末に各自で情報資産を整理するように発信を行ったり、共有で使用している機器にあるデータの消去などを行い削除を進めたりした。
生徒指導	危機管理体制の確立を図り、安全・安心な学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の充実を図る。 ・防災・防犯の意識向上を図り、素早く行動できるよう初動体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会から昼の放送を通じて、災害時の注意点などの呼びかけを行うことができた。 ・各教科領域において防災・減災につながる学習内容について、職員向けにグループウェア等で授業事例を示すことができた。来年度は、今回の事例を具体的に授業等に組み込んでいただけるようにさらに啓発を行っていきたい。 ・防災訓練等で、災害時の危険箇所など視覚的に分かるよう

			標識・目印を設置した。また、今回の能登地震の状況も分析しながら、必要な危険場所に随時、視覚的にわかるような標識等を設置していきたい。
進路指導	<p>キャリア教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、保護者及び職員向け、R4に得た課題解決に向けて進路だよりや掲示板などを活用して情報発信をする。 ・児童生徒が卒業後の進路への見通しをもてるように、進路先となる上級学部及び事業所・企業の見学、講話、体験等を設定する。 ・児童生徒及び保護者が、進路について気になることがある場合、必要に応じて関係者で進路懇談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信については、児童・生徒向けには卒業生の活躍や専門家の寄稿を得た進路だよりを発行した。中学部は独自の便りも発行した。保護者の好評を得ており、今後も進路選択に関する興味・関心を高められる内容を模索していきたい。 職員向けには専門家を招いた全校研修を実施したり、関係機関から得た情報や資料を年間を通して回覧したりした。今後も、最新かつ幅広い情報を職員間で共有し、有意義な進路指導ができる素地を共に育てていきたい。 ・各学部でキャリア教育に関する行事（小：ふれあい発見事業相当学習、中：チャレンジ体験、高：事業所見学、産業現場等における実習、進路週間等）を実施し、相応の成果を挙げることができた。振り返りで得た課題は、職員の意見を参考にしながら、次年度に向けて改善・解決を図ってきたい。 ・保護者の相談を受けた場合は、各部の進路担当が対応した。関係機関から情報を得て回答したり、橋渡しをしたりするなど、相談の改善・解決に向けて積極的に取り組むことができた。ただ、PTA研修会の際、一部の保護者から「進路相談への心理的ハードルがある」との話もあり、今後も風通しのよさを目指していきたい。 	
保健	<p>職員間の連携をもとに、安全な教育環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と看護師の情報交換を密にして医療的ケアが必要な児童生徒の体調把握に努める。また、医療的ケア、緊急時の対応について共通の理解をもって対応できるようにする。 ・ヒヤリハット事例の集約と分析に努め、事例を全校研修や職員会議等で紹介して、危機管理意識の高揚、持続化を図る。 ・新型コロナウイルス感染症への本校のガイドラインを作成し、学校職員が連携して教育環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会見学等1日日程の校外学習での、看護師ケアを実施した。事前に関係職員と看護師がしっかりと打ち合わせをすることで、安全に学習を進めることができた。 ・有事の際に確実に連絡ができるよう、救急車要請訓練での反省を基に緊急対応カードの改訂を行ったり、日常の中で起きたヒヤリハットの報告を、報告件数は減っているが、グループウェアで周知したりすることで、安全に対する意識を促すことができています。 ・救急搬送が数回あったが、教員、養護教諭、看護師がしっかりと連携してスムーズに搬送することができた。職員同士が日々コミュニケーションをとり、児童生徒の体調管理や情報共有ができていたり、発作時等の対応について、事前に訓練やシミュレーションを行っていることから迷いなく行動がとれていると思われる。 	
教育支援	<p>校内支援及び地域支援の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）をより有効に活用する方法を検討する。 ・地域の学校が活用しやすい地域支援の在り方を検討する。 ・職員への校内支援、地域支援の理解、周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SC、SSWの派遣を利用し、助言をもとに、生徒の心の状態の理解や支援、また福祉的サービスの利用や市町の関係機関との連携につなげることができた。特にSCは継続的に利用することで、生徒の継続的な支援や、状況に応じた職員への助言をいただいた。ケース会を継続的にを行い、外部機関や保護者を交えて行うことで、不登校が改善されることにつながる事例が3件あった。 ・地域の学校に地域支援を気軽に活用してもらえるように、相談例を挙げた「あゆみ相談」の案内を地域の小・中学校や高校に積極的に配布した。電話相談や相談者が来校しての相談を行うことができた。 ・グループウェアやあゆみ通信を通して、SCやSSW、ケース会での学びを全職員と共有することができた。 	
自立活動	<p>児童生徒の支援に役立つ情報や研修会を提供し、児童生徒へのよりよい支援につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校研修や夏季研修の充実を図る。 ・中部大学自立活動相談など、専門機関と連携し児童生徒や教員自身の課題を解決につなげる。 ・グループウェアで豆知識を発信し、支援についての知識を積み重ねられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季研修を中心に各研修の教員間の評価は概ね良好であった。摂食、呼吸介助、FBM、姿勢の支援について等、職員の希望に沿った研修を今後も検討する。また、専門性の高い研修は映像記録に残し、共有できるようにしていく。 ・相談した児童生徒には、具体的な指導方法や改善策、年度末には経過観察の助言を得ることができた。今後はさらなる周知、参加への心理的負担の軽減を図り、多くの児童生徒の自立活動における課題解決に寄与する。 ・豆知識の発信は少数からの好評を頂いた。今後はグループウェアの特性を生かし、読まれた職員からのフィードバックを得る機会を設けたい。 	
その他	<p>知肢併設に向けて教育環境等の整備を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知肢併設に向けた検討委員会を設置し、検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事期間中の児童生徒の活動場所の確保や校内の動線等を安全面と学習効果の面から検討する。 ・知肢併置を見据えた行事の在り方等について、各部で話し合う機会を設定する。 	

<p>学校関係者評価を実施する 主な評価項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 新学習指導要領の改訂の趣旨に応じた各授業・自立活動の改善 2 ICT機器の効果的な活用と教職員の指導力向上 3 安全で安心な学校づくりと健康の保持・増進 4 地域及び関係諸機関との連携及び社会に開かれた教育課程の推進 5 知肢併設に向けた年間行事や教育課程等、教育環境の整備
<p>総合評価</p>	<p>外部（保護者）アンケートは、100名の保護者の方から回答をいただき、回収率は約77.5%であった。全21項目の質問のうち、おおむねよい（7割以上の評価）が17項目の結果であった。「ICT機器を使った授業及び情報モラル授業の効果的実践」、「図書室を活用した読書活動」について「分からない」の回答が二割ほどあり、引き続き学校での具体的な取組を保護者に広く知らせていきたい。</p>

2 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した 主な評価項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 新学習指導要領の改訂の趣旨に応じた各授業・自立活動の改善を図ること 2 ICT機器の効果的な活用と教職員の指導力向上を進めること 3 安全で安心な学校づくりと健康の保持・増進を図ること 4 地域及び関係諸機関との連携及び社会に開かれた教育課程の推進を図ること 5 知肢併設に向けた年間行事や教育課程等、教育環境の整備を進めること
<p>自己評価結果について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を講じながら、交流及び共同学習では直接交流を再開したり、校外学習等の体験的な学習を積極的に実施したりすることができた。 ・ICT機器を活用した授業が定着し、教職員のスキルアップにつながっている。 ・日常的に教職員間で児童生徒の体調管理や情報共有をすることと、発作時の対応等のシミュレーション訓練等を行うことで、緊急搬送時にも関係職員で連携をとって対応することができた。 ・児童生徒の校内支援について、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの派遣を利用し、生徒の心の状態の理解や支援、市町との関係機関との連携につなげることができた。 ・知肢併設に向けて教育課程や行事等の検討を行ったが、スムーズに流れない状況もあった。
<p>今後の改善方策について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、健康管理面で家庭との連携を強化し、緊急時の対応について職員全体で確認するなどして安全対策を進める。 ・ICT機器の活用をするなかで、教員一人一人が情報資産を正しく管理運用できるようにする。 ・進路先決定までの流れについて、小学部の早い段階から保護者への理解が深められるように職員の研修を進めていく。学校だけでなく、地域の関係機関ともより連携を図りながら、本人にとってよりよい進路選択ができるようにする。
<p>その他(学校関係者評価委員 から出された主な意見、 要望)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器で興味を引き出し体験につなげるなど、アナログとデジタルのよさを生かしていけるとよい。 ・地域共生社会に向けて、地域へ積極的に働きかける役割を担ってほしい。 ・進路指導については早い段階からの啓発が必要であり、小学部保護者にはより丁寧な説明があるとよい。 ・学校での取組（学校で培われたもの）が、卒業後も事業所等で引き継がれるとよい。
<p>学校関係者評価委員会の 構成及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成・・・学校評議員5名（PTA会長含む） ・評価の時期・・・2月上旬

(5) 経営管理上の問題点等

- ア 学校生活全体での自立活動の指導の充実と学習指導要領を基にした授業改善への具体的取組
- イ 一人一人のニーズに合った進路指導の更なる充実及び保護者の期待に応えられる具現化への対応
- ウ 専門性(教科、自立活動、教育相談等)向上のための研修の充実と外部関係機関との連携強化
- エ 各種行事及び校務の業務内容の縮減等による勤務時間の適正化及び教員の多忙感の軽減
- オ 知肢併設に向けた施設・設備の整備、また工事に伴う学習環境の整備と駐車場等の安全確保